

第1学年 音楽科学習指導案

ろ組 男子17名 女子18名 計35名
指導者 本田 康幸

1 題材 りずむをかんじて

教材 なまえあそび

「じゃんけんぽん」 芙蓉明子 作詞 橋本祥路 作曲

「けんけんぱ」 石桁冬樹 作詞作曲

「ぶんぶんぶん」 村野四郎 作詞 ボヘミア民謡

「かたつむり」 文部省唱歌

◎「しろくまのじえんか」 平井多美子 作詞 ケン ウォール 作曲

「とんくるりんぱんくるりん」 滝紀子 作詞 川崎祥悦 作曲

「うみ」 文部省唱歌 林柳波 作詞 井上武士 作曲

2 題材について

(1) 題材の位置とねらい

これまでに子どもたちは、入学以前から、体を動かしながら歌ったり簡単なリズム楽器を使って演奏したりする活動を通して、音楽に合わせて歌うことや体を動かしながら歌うことの楽しさを味わってきている。さらに子どもたちは、友だちといっしょに合わせてたり歌詞の情景に合わせて動きをつけたりしながら歌おうとする欲求が高まってきている。

そこで、ここでは、歌に合わせてリズム打ちをしたり、情景に合わせて体の動きを工夫しながら表現したりする活動を通して、拍の流れに合わせて表現したり鑑賞したりする能力を育てるとともに、友達とリズムを合わせることに興味をもち、体を動かしながら拍の流れを感じ取ってリズムよく表現するための工夫をする能力を高めることをねらいとして、本題材「りずむをかんじて」を設定した。

ここでの学習は、2拍子や3拍子の違いを感じ取って歌ったり、歌に合わせてリズム伴奏をしたりする能力を育てる題材「2びょうしと3びょうし」の学習へと発展していくこととなる。

(2) 指導の基本的な立場

拍の流れに合わせて表現したり鑑賞したり能力を高めるには、教師や友達の演奏をよく聴いて、音楽を形づくっている要素に気を付けながら、繰り返しリズム唱やリズム打ちに親しむことが効果的である。特にこの期の子どもたちには、拍の流れを手や足、体全体で感じ取りながら表現を追求できるようにすることが大切である。

具体的には、まず、「なまえあそび」の活動に取り組ませる。この活動は、〇〇〇・のリズムフレーズを基にしてリズム模倣遊び等を十分に経験することができる。そこで、ここでは、子どもの名前や果物の名前によるリズム模倣遊びを通して、拍の流れを感じ取りながらリズムフレーズを演奏する楽しさを味わえるようにする。

次に、「しろくまのじえんか」や「じゃんけんぽん」、「けんけんぱ」を取り上げる。これらの楽曲は、強拍と弱拍が明確であり、拍の流れを感じ取りやすい楽曲である。そこで、「しろくまのじえんか」では、〇・〇・〇〇〇・のリズムフレーズに合わせて友だちと一緒にジェンカのステップを踏みながら踊ったり、他の2曲では、〇〇〇・のリズムフレーズでジェスチャーを入れて遊んだりしていく。また、3曲とも付点のリズムフレーズをもつことが共通しているため、「たっか」等の子どもの言葉に置き換え、感じをつかむことができるようにすることで、強拍や弱拍を意識して拍の流れを体全体で感じ取る楽しさを味わえるようにする。

さらに、「ぶんぶんぶん」や「かたつむり」を取り上げる。これらの楽曲は、8分音符によるものや付点とのリズムフレーズなど、同じようなリズムフレーズが繰り返され、強拍を感じ取りやすい楽曲であるとともに、身近な生き物を取り上げているため情景を想像しやすい。そこで、ここでは、絵譜によってリズムフレーズを視覚的にとらえ、題材全体を振り返ることができるようにしな

がら、手拍子や打楽器でのリズム打ちや動物を想像して歌う活動を通して、情景を思い浮かべながらリズムよく歌う歌い方を工夫する楽しさを味わえるようにする。

さらに、「とんくるりんぱんくるりん」を取り上げる。この楽曲は、強拍に「とん」や「ぱん」という歌詞がくるため、強拍を感じ取りやすい。最後に「うみ」を取り上げる。1拍目に分割のリズムがくるリズムパターンの繰り返しを感じ取りやすい。そこで、ここでは、絵譜の提示や言葉によるリズムの表現とともに、体を動かしながら強拍を感じ取る活動やリズム打ちの活動を通して、様々なリズムパターンや3拍子の感じを感じ取る楽しさを味わえるようにする。

このような学習を通して、子どもたちは、体を動かしながら音楽のよさや面白さ、美しさを味わい、リズムを中心とした音楽を形づくっている要素の働きを感じ取りながら表現したり鑑賞したりすることへの関心・意欲を高め、楽しく音楽とかわかっていこうとする態度を養うことができる。

(3) 子どもの実態 (調査対象 1年ろ組 男子17名 女子18名)

本学級の子どもの実態は次の通りであった。

① 音楽に合わせて手合わせ遊びをしたり、じゃんけん遊びをしたりするのは楽しいですか。	はい(35) いいえ(0)
② その理由を教えてください。(複数回答)	・体を動かすのがとにかく楽しい(28) ・友達と遊ぶのが楽しい(25) ・音楽によって動ける(3)
③ みんなで歌ったり音楽を聴いたりして遊ぶ時は、どんなことに気を付けていますか。(複数回答)	・みんなとリズムが合うようにしている(20) ・先生や友達の動きをまねする(12) ・動きが合うようにしている(9) ・無回答(13)
④ 話し合っただけの動きで体を動かしながら「さんぽ」を歌いましょう。	できる(27) できない(8)
⑤ 「さんぽ」に合わせて○・○・○○・のリズムをリズム打ちしましょう。(教師の模範無し)	・拍の流れに合わせてできる(32) ・拍の流れに合わせてできない(3)

①②から、音楽に合わせて体を動かしたり、遊んだりすることの楽しさを多くの子どもが感じている。そこで、落ち着いて聴く活動も取り入れながら、体を動かすことで音楽を形づくっている要素を感じ取ることができるようにし、さらに、教師の発問や板書等で示しながら、それを基にして曲の気分を感じ取ることができるようにしていく必要がある。

また、③から、リズムを基にして活動しようとする子どもたちが多く見られるとともに、体を動かすことが多くの子どもの目的になっている。そこで、話し合いや板書で、体を動かして感じ取ったことと音楽を形づくっている要素との関連に気付くことができるようにしていく必要がある。

④⑤から、動きに夢中になって拍の流れを感じ取ることができなくなったり後半部分のリズムを覚えられなくて変わってしまったたりする子どももいる。よく聴くことを促す発問が不足したり聴くだけでは、短いリズムパターンは覚えられるが、長くなると覚えられなかったりすることが理由であると考えられる。そこで、活動の目的を明確に示した上で、教師の動きを模倣する活動を多く取り入れたり、リズムフレーズを絵譜で示すなど視覚的にとらえさせたりする必要がある。

(4) 指導上の留意点

以上のようなことをふまえて、指導に当たっては次のようなことに留意したい。

ア 遊び歌のよさや面白さを実感し、進んで活動に取り組むことができるように、実際に遊んでいる様子を提示したり、どのような時に生かすことができるかを話し合う場を設定する。

イ 子どもたちが、体を動かすことに終始せず音楽を形づくっている要素とそこから醸し出されるよさや面白さ、美しさを感じ取って表現したり鑑賞したりすることができるように、表現の意図や思いを話し合いながら表現・鑑賞する場を設定する。

ウ 子どもたちが拍の流れを感じ取りながらリズムよく表現したり鑑賞したりすることができるように、体を動かして拍の流れを感じ取る活動やリズム模倣遊びの活動、絵譜や言葉で示したリズムフレーズを視覚的にとらえることができる活動を取り入れていく。

3 目 標

- (1) 友達とリズムを合わせることに関心をもち、リズムが合っているか振り返りながら、進んで活動に取り組むことができる。
- (2) リズムを感じ取りながら表現したり鑑賞したりするための工夫をすることができる。
- (3) 拍の流れを感じてリズムフレーズを表現したり鑑賞したりすることができる。

4 指導計画 (全8時間)

過 程	時	教材	主 な 学 習 活 動	教師の具体的な働きかけ
課題把握 課題追求Ⅰ	1	なまえあそび	<p>なまえあそびをしよう。</p> <p>○ リズムのまねっこ遊びをする。</p> <p>りずむりれえはたのしいな。</p>	<p>○ 「○○○・」にリズムを当てはめやすいように、2～4文字の果物を例示する。</p> <p>○ 歌詞と動きを関連付けながら活動できるように模倣をする活動を取り入れる。</p>
課題追求Ⅱ	2・3・4	しろくまのじえんか じゃんけんぼん	<p>たのしいじえんかのおどりをかかんがえながらきこう。</p> <p>○ 「しろくまのじえんか」を聴いてリズムの繰り返しについて話し合う。</p> <p>○ ペアやグループで体を動かし、拍の流れを感じながら鑑賞する。</p> <p>じゃんけんをしなごうたおう。</p> <p>○ 主旋律の聴唱をする。</p> <p>○ 歌詞の内容と体を動かす活動とを結び付けてじゃんけん遊びをする。</p> <p>たん・たんのりずむはわかったぞ。</p> <p>けんけんばをしなごうたおう。</p> <p>○ 主旋律の聴唱をする。</p> <p>○ 「～のまねして」のところは動物のまねを工夫して歌う。</p> <p>○ これまでの遊び歌を生かす場面について話し合う。</p>	<p>○ 拍の流れに合わせて踊るよさや面白さに気付かせるために、個人でじっくりと取り組んだり人数を徐々に増やしたり、動きに変化をもたせて鑑賞するようにする。</p> <p>○ 動きを入れる箇所のリズムを視覚的にとらえられるように、絵譜を掲示し歌詞と対応させる。</p> <p>○ 遊び歌を生活に生かすことができるように、生かす場面を例示する。</p> <p>○ 動物のまねで、イメージを膨らませ、表現の工夫をする楽しさを味わうことができるように写真や映像を提示する。</p>
課題追求Ⅲ	5・6 (本時)	ぶんぶんぶん かたつむり	<p>はちさんのことをかかんがえながらうたおう。</p> <p>○ 主旋律の聴唱をする。</p> <p>○ リズム譜を見ながら打楽器や手拍子でリズム打ちをする。</p> <p>かたつむりさんのことをかかんがえながらうたおう。</p> <p>○ リズム譜を見ながらリズム唱をしたり、手拍子を打ったりする。</p> <p>「たた」と「たた」のりずむのちがいをたくさんみつけたよ。</p>	<p>○ 遊び歌の楽しさを味わい、生活に生かせるように、どのような場面で生かせるか話し合う場を設定する。</p> <p>○ 分割リズムが感得できるように視覚的にとらえやすい絵譜を準備する。また、付点のリズムや分割のリズムの違いを感じられるように、「じゃんけんぼん」で使用した絵譜と分割されている絵譜とを比べるようにする。</p>
課題追求Ⅳ	7	どんくろりんぼん うみ	<p>りずむにのってとんくるりんばんくるりんをうたおう。</p> <p>○ 繰り返されるリズムのリズム打ちをしたり打楽器で演奏したりする。</p> <p>ゆったりしたかんじがでるようにうみをうたおう。</p>	<p>○ リズムに注目して歌うことができるように、「ここでは、どんなリズムが出てきているかな。」と発問する。</p> <p>○ 繰り返すリズムフレーズに気付き、ちがいが分かるように、題材内で使用した絵譜を提示し、違いについて話し合いながら振り返る場を設定する。</p>
まとめ	8		<p>りずむがちがうのが、はっきりとわかるようになったよ。</p>	<p>○ 3拍子の感じを感じ取ることができるように、リズムフレーズの拍数を2拍子のものと比べられるようにする。</p>

5 本 時 (6 / 8)

(1) 目 標

- ア リズムに気をつけながら歌うことに関心をもち、進んで活動に取り組むことができる。
- イ かたつむりの様子を思い浮かべて歌い方を工夫したり拍の流れを感じながらリズムよく表現したりすることができる。

(2) 本時の展開に当たって

子どもたちが拍の流れを感じながら付点のリズムや8分音符の分割のリズムを感じて表現できるように、前時までのリズムパターンを絵譜や歌詞カードを使って振り返る活動を取り入れるようにする。また、歌詞に示されているかたつむりの動きを想起しながら歌うことができるように、日常生活の経験を発表させたり画像を活用させたりする。

(3) 実 際

過 程	主 な 学 習 活 動	時 間	教 師 の 具 体 的 な 働 き かけ
課題把握	1 「かたつむり」の範唱を聴く。 ・ かたつむりみたことあるよ。 ・ まえのがくしゅうとにしているところはないかな。	(分) ↑ 8	○ 楽曲のイメージを膨らませることができるようにするために、「どんな生き物が出てきたかな」や「本物を見たことあるかな」と発問する。
課題追求	2 本時の学習について話し合う。 かたつむりさんのことをかんがえながらうたおう。		○ かたつむりの様子を思い浮かべられるように、画像を提示する。
旋律把握	3 聴唱による旋律把握をする。 ・ かたつむりは、つのとかやりとかもっているかな。 ・ りずむがむずかしいなあ。 〈前時までの学習から想起させるもの〉 ①じゃんけんぽん：付点のリズム ②ぶんぶんぶん：8分音符での分割リズム ・ ほんとうだ。にているりずむをみつけたよ。 ・ はやく・ゆっくり・はやく・ゆっくりですすんでいるみたいなりずむだね。	↑ 27	○ 歌詞にある「つ」や「やり」についてイメージを膨らませることができるように、画像を基に話し合ったり経験を発表させたりする。 ○ これまでの学習を想起しながら旋律把握ができるように、「じゃんけんぽん」や「ぶんぶんぶん」の一部を取り上げる。
表現の工夫	4 それぞれがもっているかたつむりのイメージに合うように、歌い方を工夫する。 ・ りずむにきをつけたら、かたつむりがゆっくりすすむかんじがでるね。 ・ ちいさいかたつむりにはなしかけるようにやさしくうたいたいな。		○ 付点+8分音符の分割リズムの繰り返しに気付くことができるように、前時までの学習で使用した付点のリズムや分割のリズムを言葉に変えたものを提示する。
相互発表・鑑賞	5 相互発表・鑑賞する。 ・ りずむよくうたえていたよ。 ・ やさしくうたうかんじもいいね。	↓ 10	○ 表現の工夫をする際の基にする音楽を形づくっている要素が出せない場合は、「そのかたつむりの大きさはどれくらいで、どんな風に歌いたいたいな。」と発問する。
まとめ	6 学習のまとめをする。 ・ かたつむりのことをかんがえてうたいかたをよくできた。 ・ りずむがちがうとかんじもかわるね。		○ 聴く児童もイメージと表現の工夫のつながりを明確にできるように、「かたつむりの様子」と「表現の工夫とその理由」とを並べて板書する。 ○ まとめる際の視点をもつことができるように、拍の流れやリズム、歌声の音色等の変化について尋ねるようにする。